

令和7年度 事後評価シート

【事務事業シート】

1

当初

事 項	「豊かな中予暮らし」体験・交流事業費						予算主管課		地域政策課					
事 業 概 要	就職活動をスタートする前の中予管内の大学生（1、2年生）に対し、県内企業を知る機会を提供するとともに地域の魅力を体感してもらうことにより、県内就職を促進し、若者の県内定着を図る。						始期	2023						
							終期	2025						
K P I	参加者の県内への就職活動者数													
	KPI種別	上がると良い指標		R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度				
		R 4 年 度		目標値	0 人		目標値	35 人		目標値	105 人			
	実績値	人		実績値	1 人		実績値	6 人		実績値	13 人			
	ストック /フロー	ストック		達成率	%		達成率	17.1 %		達成率	12.4 %			
	コ ス ト		最終現計 予算額	8700 千円		最終現計 予算額	3912 千円		最終現計 予算額	3521 千円		最終現計 予算額	千円	
			決算額	3890 千円		決算額	2961 千円		決算額	2770 千円		決算額	千円	
							繰越額	千円		繰越額	千円			
								不用額	751 千円		不用額	千円		

7
年
度

要因分析	要因 複数回メールを送る等、対象者への連絡を試みたものの、今年度も調査への回答数が少なく、実態を把握するのが困難であるため。										
	総括 主な実績と成果は次のとおり。 （1）参加大学生の意識変化（フィールドワーク参加者アンケート結果（3年間の集計）から） ・参加者の9割以上が「愛媛県に愛着がわいた」と回答 ・学生が知っている県内企業数が約4.3倍に増加（1人平均3.9社→16.7社）※事業執行前後で比較 （2）フィールドワークの回数（のべ参加者数） ・R5：10回（99名）、R6：12回（195名）、R7：8回（158名）、計30回（452名） ※毎年中予管内の6市町全部で実施。R6及びR7は東予と南予でも各1回実施し愛媛県全体の魅力を伝えた 事業全体を通して、地元大学生、地方両若手職員、地域づくり団体、企業など、多様な主体と連携しながら、中予管内各市町の「暮らし」と「仕事」の魅力を自ら発掘し、県内在住の若者に伝えることができた。特に就職を控えた大学生からは「夢土愛が深まり、愛媛で暮らし、働きたいと思った」「いろいろな県内企業を知り、就職への新しい発見の場になった」との声があり、若者の県内定着に一定の効果をもたらすことができた。										
見直し方向性											

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

2

当初

事 業 概 要	「豊かな中予暮らし」体験・交流事業費						予算主管課	地域政策課		
	就職活動をスタートする前の中予管内の大学生（1、2年生）に対し、県内企業を知る機会を提供するとともに地域の魅力を体感してもらうことにより、県内就職を促進し、若者の県内定着を図る。						始期	2023		
							終期	2025		
K P I	参加者の愛work新規利用登録者数									
	KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		R 4 年 度	目標値	90 人	目標値	180 人	目標値	270 人	目標値	人
	実績値	人	実績値	36 人	実績値	103 人	実績値	157 人	実績値	人
	ストック/フロー	ストック	達成率	40 %	達成率	57.2 %	達成率	58.1 %	達成率	%
	コ ス ト		最終現計 予算額	8700 千円	最終現計 予算額	3912 千円	最終現計 予算額	3521 千円	最終現計 予算額	千円
			決算額	3890 千円	決算額	2961 千円	決算額	2770 千円	決算額	千円
					繰越額	千円	繰越額	千円		
					不用額	751 千円	不用額	千円		

7
年
度

要因分析

要因
イベント終了後すぐに登録作業を行えるようなタイムスケジュールとしたものの、ジョブカフェ愛workとイベント内容の接続性が薄いことなどにより、登録者が目標に届かなかった可能性がある。

総括
主な実績と成果は次のとおり。
（1）参加大学生の意識変化（フィールドワーク参加者アンケート結果（3年間の集計）から）
・参加者の9割以上が「愛媛県に愛着がわいた」と回答
・学生が知っている県内企業数が約4.3倍に増加（1人平均3.9社→16.7社）※事業執行前後で比較
（2）フィールドワークの回数（のべ参加者数）
・R5：10回（99名）、R6：12回（195名）、R7：8回（158名）、計30回（452名）
※毎年中予管内の6市町全部で実施。R6及びR7は東予と南予でも各1回実施し愛媛県全体の魅力を伝えた
事業全体を通して、地元大学生、地方両若手職員、地域づくり団体、企業など、多様な主体と連携しながら、中予管内各市町の「暮らし」と「仕事」の魅力を自ら発掘し、県内在住の若者に伝えることができた。特に就職を控えた大学生からは「夢土愛が深まり、愛媛で暮らし、働きたいと思った」「いろいろな県内企業を知り、就職への新しい発見の場になった」との声があり、若者の県内定着に一定の効果をもたらすことができた。

見直し方向性

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

3

当初

事 項	若者活躍促進事業費（東予）						予算主管課		地域政策課					
事 業 概 要	東予地域の若者の転出超過の縮減のため、進学や就職で転出する前の高校生を対象に、地域の魅力体験機会の提供や地域振興への参画支援等の実施に加え、地域の新たな魅力創出に取り組むことで、シビックプライドを醸成し、定住・回帰志向の向上を図る。						始期		2025					
							終期		2027					
K P I	将来地元のために活動したいと思った参加高校生の割合（アンケート）													
	KPI種別	上がると良い指標		R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度				
	R 4 年 度		目標値	%		目標値	%		目標値	100 %				
	実績値	%		実績値	%		実績値	68 %		実績値	%			
	ストック フロー	フロー		達成率	%		達成率	%		達成率	68 %			
	コ ス ト		最終現計 予算額	千円		最終現計 予算額	千円		最終現計 予算額	1600 千円		最終現計 予算額	千円	
			決算額	千円		決算額	千円		決算額	1590 千円		決算額	千円	
					繰越額	千円		繰越額	千円					
						不用額	10 千円		不用額	千円				

7 年 度	要因分析	要因 アンケートについて、「活動したい」が68%、「わからない」が26%、「活動したいと思わない」が6%の結果となった。事業を通じ、高校生と話をしたところ、将来像をまだ描けなかった高校生が複数人いたことも確認しており、直ちに地元で活動したいという結果には至らなかった可能性がある。									
		総括									
	見直し方向性	改善	8年度は、高校生に対して、事業開始時点で当事業の目的を明確に伝え、事業を通じて高校生に将来像を描いてもらうよう意識付けを行っていき、シビックプライドの醸成や定住・回帰志向の向上に努めてまいりたい。								

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。

4

当初,2
月補正

事 項	官民共創による若者のえひめライフ応援事業費										予算主管課	少子化対策・男女参画課
事 業 概 要	官民が連携し、学生にはライフデザイン支援を通して自分らしい生き方を考える機会を提供し、社会に出た若者には地域内で交流する仕組みをすることで、地域での人のつながりや一体感を醸成するとともに、県内で若者が希望する人生を選択できる環境づくりを進める。										始期	2025
											終期	2027
K P I	自身の将来について考えるきっかけを持つことができたと考える参加者の割合											
	KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度			
		R 4 年 度	目標値		目標値		目標値	100	目標値	100		
	実績値		実績値		実績値		実績値	98.3	実績値			
	ストック /フロー	フロー	達成率	%	達成率	%	達成率	98.3 %	達成率	%		
	コ ス ト		最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	千円	最終現計 予算額	48061 千円	最終現計 予算額	千円		
			決算額	千円	決算額	千円	決算額	25376 千円	決算額	千円		
			繰越額	21244 千円	繰越額	千円						
				不用額	1441 千円	不用額	千円					
7 年 度	要因分析	要因 令和7年度から、前年度に作成したライフデザインノートを活用して講座を実施したことで、9割を超える参加者から講座に対して高い評価を得たものの、授業前半にライフデザインを考えるために必要な参考情報を伝える際、学生との双方向のやり取りが少なく、一方的な講義の時間となったこと等の理由で、なかには時間がなく考えが発展しなかった等の意見もあり、目標値には達しなかったと考える。										
		総括										
	見直し方向性	維持	満足度の高い講義となっているが、自分の将来やライフデザインについて考えるきっかけを持てていない生徒も一部いることから、令和8年度執行時からは主体的に授業に参加をしてもらえるよう、これまで以上に講師と生徒との対話や、生徒同士での対話（意見や考え方の共有等）を行う事で、自分自身の内省に繋がり、漠然とした将来のイメージが少しでも明確化・現実化することを目指す。									

※令和6年度までの予算・決算額は流用額及び前年度からの繰越額を含みません。